

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100223		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホーム愛敬(愛ホーム)		
所在地	上川郡愛別町豊里291-2		
自己評価作成日	平成30年8月17日	評価結果市町村受理日	平成30年10月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0173100223-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成30年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境を活かし、利用者と屋内、外での生活を楽しく過ごしていただけるよう努め、地域住民との交流を多く取り入れながら、理念である「のびのび、にこにこ暖かく」「ゆっくり、いっしょに、たのしく」「長寿喜楽、敬老奉仕」を実践出来るよう努力し、自分が入所したいと思える施設を目標に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR愛別駅から少し離れた自然に恵まれた閑静な田園地帯に位置し、長く連なる小高い裏山には、ぶどう、こくわ等秋の味覚が収穫を待ちかねている。居間・食堂は一体的で広くて明るく、ぬり絵などの利用者の作品を飾り家庭的で、大きな食卓テーブルを全員で囲み和やかに楽しく食事をしている。回廊式の廊下から四季の移ろいが楽しめ、二つのユニットが廊下で繋がっていて、利用者は自由に行き来して交流し、大きな風呂には仲良しが2人一緒に入って入浴を楽しんでいる。職員は長く勤めている人が多く、利用者との関係は和やかで一人ひとりのペースに合わせ、事業所全体がほんわかとしたゆったりした生活を過ごしている感じがする。愛別町の移動図書館が毎月訪れ、利用者は好きな本を借り受けるのを楽しみにしている。行政、地域住民、事業所とは行事などを通じて日頃から交流し信頼関係も厚く、北海道胆振東部地震の際には、役場職員、地域住民が駆け付けて協力し、発電機の提供、農産物の差し入れなど地域に根付いた事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝の申し送り、ミーティング時に、職員で唱和し、ゆっくり寄り添うケアに取り組んでいます。	理念及び「介護20ヶ条」を掲示し、申し送り時、ミーティング時に確認共有してケアに繋げている。又、年度初めの理事長研修で理念について講話があり確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内のボランティアやサークルの方々が訪問して頂き、納涼祭では地域の方々に協力して頂いています。	地域の祭りに参加したり、事業所の行事「納涼祭」には行政、地域住民、家族など180人余が参加して交流している。愛別ひよっこ踊り会などのボランティアが来訪して交流し、地域から野菜などの差し入れが日常化し地域との強い繋がりがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して「役に立つこと」について話し合いを行っています。 オレンジカフェの行事に参加しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会、民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員が構成委員となり2ヶ月に1回開催し、利用者の状況等意見交換を行い、サービスの向上に取り組んでいます。	年6回定期的に開催し、行政、民生委員、家族などが参加して、利用者の状況、行事報告等を行って、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。防災訓練等でも協力関係を構築している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所状況、行事予定の報告と開催等の協力を得ています。おたよりの配布作業、ご家族との連絡等、緊急時の対応についても協力体制が得られています。 地域ケア会議へ参加しています。	運営状況を報告したり、利用者に関する手続きなどで照会や指導を受け、運営推進会議参加時には、指導、助言、情報を得ている。地域ケア会議、研修会に参加するなどさまざまな事業で連携している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が正しく理解し、身体拘束のないケアを実践しており、日中玄関の施錠はせず、自由に出入りできるよう配慮しています。	内部研修などで全職員が身体拘束の弊害を理解し、見回り、気配りに心がけて、身体拘束をしない取組を実践している。玄関は防犯上夜間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待防止について話し合い、言葉や態度での虐待がないか、職員同士でも充分話し合っって対応しています。			

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング、外部研修で学ぶ機会を設け、必要な場面で対応できる体制をとっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明させていただき理解を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の意見を聴取し、受け入れ、運営推進会議、家族会、面会時に意見要望をお聞きし、ミーティング等で話し合い、運営に活かしています。	日常の会話、表情などから利用者の意見、要望を把握し、家族からは来訪時や運営推進会議参加時、家族会参加時などに意見・要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員との面談を行い、意見を聞く機会を得ています。	職員が意見や提案を言いやすい雰囲気、日常の業務の中で話し合ったり、全体ミーティングなどで話し合い運営に反映させている。又、年1回職員面談を行って意見などを聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握をし、各自やりがいや向上心を持ち、働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回内部研修を行い、外部研修に参加する機会を設け報告書を作成し共有に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームと交流を行い、グループホーム協会に加入し研修会参加や、意見、情報交換をする中でサービスの向上に取り組んでいます。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話をもち、生活習慣や好みを伺い、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族のお話を伺い、入所後も、何でも話していただける雰囲気作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の希望される支援を見極めたサービス提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に作業を行いながら、ご本人の自主性を尊重する関係作りを大切にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況や共感した事をご家族の面談時等にお伝えし、共に利用者を支え合える関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方が来訪しやすいよう、また、ゆつくり面会して頂けるように努めています。	知人・友人が来訪したり、地域の人が野菜をもって来たり、訪問理美容や祭り見学、家族と墓参りに行くなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護員も会話に加わり、利用者同士でもお話や交流が増えるよう支援しています。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も何かあれば相談に応じ、必要に応じたフォローができるような体制となっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望をお聞きし、意向にそった生活を送って頂けるよう対応しています。	日常生活での会話、しぐさ・動き・サインなどから個々の思いや意向を把握し職員で共有して、希望や意向に添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からお話をお聞きし生活に活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティング等で一人一人の状況の引継ぎを行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のアセスメント、3ヶ月毎のモニタリングを行い、本人の状況に合うよう話し合いながら介護計画を作成しています。	利用者、家族の意向を反映させ、職員の気づき等も参考に話し合い、短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に現状に即した介護計画を作成し、家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事を介護日誌に記入し、情報共有と見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お花見やドライブ、簡単な買い物など柔軟な支援、サービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内ボランティア等の協力を得ながら利用者様の力を活かせるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望される医療機関への通院同行を行い、状況の把握、報告を行っています。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。職員が付き添い病状により家族も一緒に付き添っている。月1回訪問医による診察を受けている。	

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡がとれる体制にあり、一人一人の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院生活が安心して送れるよう、情報提供を行い、病院と連携し、早期退院になるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期の看取りの指針があり、家族と事前に話し合いながら、医師の指示を受け医療支援が受けられるよう体制をとっています。	契約時、看取り指針に基づき利用者、家族に説明し理解を得ている。重度化が認められたら、本人、家族、医師などと話し合い、看取り、医療機関に入院する等、希望に添えるよう支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時に利用者、家族に説明し同意書にて確認印を得ている。その後、病状の変化に応じ話し合いの都度、その結果を同意書にて家族の確認印を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練を定期的実施しAEDの使用や応急手当の実践を行い身につけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練及び避難時の手順や初期消火、緊急時の体制等身につけています。	年2回(夜間想定)消防署の指導、地域住民、家族が参加して避難訓練を行っている。食糧、ストーブなど備蓄している。9月6日の北海道胆振東部地震の際には、いち早く役場職員、地域住民などが駆け付け、援助を受けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いや考え方に寄り添える声かけをさせて頂いています。	接遇についての内部研修を行って、「介護20か条」を指針に、一人ひとりの気持ちを大切に声かけをして尊厳や誇りを損ねないように努めている。個人情報の書類やデータ管理に注意して、常日頃から利用者のプライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多くもちながら、本人の思いや希望を表現しやすいよう努め、自身で決定して頂けるよう支援させて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ声かけをさせて頂き、希望に合う生活となるよう対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を取り入れながら、一緒に服を選んだりして頂いています。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮むき等の下ごしらえを皆さんとお話しながら行ったり、下膳や食器洗い等一人一人に合った作業をしています。	利用者の希望を取り入れて献立を作り、職員が調理している。利用者は能力に応じ、季節の山菜ふきなどの皮むき、下膳などを行っている。大きな食卓テーブルを利用者・職員全員で囲み和やかに楽しく食事をしている。外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みや習慣を把握し、それぞれに合わせた形で提供し、十分な栄養と水分を確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声かけをし、必要な利用者には介助させて頂き、口腔内の清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握し時間を見て声かけするなど、排泄の自立につながる支援を行っています。	排泄表から個々の排泄パターンを把握し、表情、態度などに気をつけながら、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に努めている。オムツから布パンツへと改善が見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分と運動また食事の工夫など、便秘予防となるよう支援を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お湯加減等一人一人の好みに合うよう努め、楽しく入浴されるよう支援しています。	週2回の入浴を基本とし、要望があればいつでも入浴できる。大きな風呂には仲良し2人が一緒に入って会話を楽しんでいる。熱めの湯など一人ひとりの好みに合わせて湯の温度を調整し、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じ、安心して休まれるよう支援しています。不眠時には寄り添いお話をするなどしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の理解をし、服薬時、職員同士で十分な確認を行い、利用者にも確認して頂き、飲み込むまで見守りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレク、読書や植物栽培など一人一人の好みや生活歴や力を活かした過ごし方ができるよう支援しています。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外散歩、外気浴等を行い運動不足にならないよう支援しています。天気の良い日はドライブ、外出の支援も行っています。	散歩や外気浴、花見、ドライブ、オレンジカフェ、外食などへ出かけたりして、日常の生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族、ご本人の希望でホーム管理となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話したり手紙のやりとりを支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には利用者と一緒に作成した工作、絵、写真など季節を取り入れた作品を掲示しています。共同の空間では光、温度、湿度等の調整をし安心して過ごして頂けるよう配慮しています。	居間・食堂は一体的で、広くてゆったりし、温・湿度等も適正に調整され、ユニット間は四季の移ろいが楽しめる回廊式の廊下で繋がりが、自由に行き来できる。壁にはぬり絵などの利用者の作品、行事の写真等を飾り、利用者は好きな場所にあるソファに座り、テレビを見たり会話をするなどゆったりと思いいいに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、ソファに座りテレビを見たり、新聞を読まれたり会話を楽しまれたりされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族で相談され自由に好みの物、使い慣れた物を持ち込んで頂けるようになっています。	洗面台、押し入れが備え付けられ、馴染みの家具やテレビなどを持ち込み、出窓形式の窓辺には植木鉢の花などを飾り、壁には家族の写真等を飾って、居心地よく落ち着けるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱など生じないように、一人一人声かけし、会話の内容にも注意しながら支援しています。		